



## 現場で学ぶ大切さを実感！第3回戦争遺跡親子見学会

7月24日(日)、第3回戦争遺跡親子見学会が開かれました。子どもたちは夏休みに入ったばかりでしたが、70数年前の戦争の悲惨さに思いをさせ、学校の自由研究の一助になればと、この時期に合わせ、今年で3回目の見学会を開催しました。市内の親子を中心に約30名ほどが応募・参加し、午前中の約3時間、暑い中でしたが、熱心にメモをとり聞き入っていました。

第1回、第2回は鈴鹿海軍航空基地など旧海軍の施設が中心でしたが、今年は鈴鹿川北岸の旧陸軍の施設を中心に、案内役の市民の会・浅尾悟さんの説明で各戦争遺跡を見て回りました。加佐登の鈴鹿フラワーパークに集合、市民の会共同代表の中森成行さんの挨拶の後、早々にバスに乗り、まずは近くの「陸軍第一航空軍教育隊跡」を見学。レイクタウンのすぐ北にあり、弾薬庫やその基礎も残る遺跡に近くに住む子どもたちも「こんな近くに戦争遺跡があるなんて知らなかった」との感想でした。

次に向かったのが「北伊勢陸軍飛行場<sup>えんたい</sup>掩体」、今見学会の目玉というべき遺跡で、三重県で唯一残るコンクリート製の掩体、写真で見るよりも大きく、製造過程を伺う板目やコンクリートの厚さなど、やはりその場で見て、触って、聞いて実感する大切を痛感しました。次に亀山市に入る「北伊勢陸軍飛行場跡」、9棟あった格納庫の一部の遺跡を見て回りました。

見学時間に余裕があり、予定には組んでいませんでしたが、追分町にある「椿秘匿<sup>むがいえんたい</sup>飛行場掩体」を急ぎ見学することになりました。50数カ所も作られた土製のU字形の無蓋掩体の一つで、戦争末期の本土決戦を見据えた特攻用の遺跡にこの鈴鹿にも戦争があったことを実感するものでした。最後に石薬師町の「陸軍第一気象連隊跡」を見学。建物跡などはなくなりましたが、日本で唯一の気象連隊跡で、この部隊で育った多くの若者が中国や南方で命を落としていった事実<sup>じじつ</sup>に思いを馳せていました。

今回の見学会には市外からも参加者もあり、第1回から3連続で参加していただいた方も見えました。戦争を風化させない、戦争の悲惨さと不合理さ、平和の大切さを若い世代に感じ取

っていただきたいとこのような見学会を企画しました。「現場で学ぶ」という言葉があり、本や映像で見えても、やはり現場で見て、感じたことに勝るものはありません。戦争遺跡もその場に立ってこそ当時の思いに触れられるものもあるはずです。今回参加していただいた方の感想を見ても、やはり参加して(現場に来て)よかったという方が多いように感じました。来年もこういった見学会を企画したいと思っています。



【集合場所で浅尾さんから説明をうける参加者の皆さん】

## 見学会参加者の感想



【北伊勢陸軍飛行場掩体】

★最初は？だったけど後からわかるようになり、戦そうって、こうやって残っているんだ～ということがわかった。  
(11歳男性)

★今日、戦争遺跡にノートをかいてきました。ノートをかいて、6こかきました。(16歳男性)

★地域の歴史を学びたい、と思って参加しました。今まで知っていたところも、新たな発見(説明をきいて)があり、写真を見たことはあるもののどこにあるのかわからなかった(のぼのの格納庫)の場所も分かり、収穫のあった数時間でした。戦争遺跡は、あまり気づかない場所にあり、こういう機会がないと、なかなか知ることができないと思います。今後もこうした企画をして頂けることを願っています。今日はありがとうございました。(40代女性)

★鈴鹿市に戦争に関する場所がこんなにあるんだなーと思いました。今日の体験がなかったら、戦争の事を知らなかったと思うので行ってよかったです。(10代男性)

★せんそうの時のころのものはすごく作るのに時間がかかったと思いました。でもこうしてげんだいはちがってむかしのつくり方は木で作ったと思います。そのどりよくをいまげんだいの人間におどろかせることができたと思います。また来年もよろしくおねがいします。  
(10代未満女性)

★地元近くの、日頃よく行き来するところに、戦争遺跡がありました。教えていただかなければ、知ることができない気づかないものなので、参加できてよかったです。子供が歴史が好きなこともあり、夏休みの自由研究のテーマを戦争にしたのですが、よりくわしくわかるとおもい参加しました。子供にもわかるよう、かみくだいて説明して下さりとても助かりました。ぜひ、また来年もきたいと思っています。

★鈴鹿市にこんなのがあったとは思いませんでした。戦争というものを間近で感じる事ができました。今日は参加してよかったです。(10代男性)

★このちかくにこんなにたくさんの戦争いせきがあるとはしりませんでした。来年もあればまたいきたいと思った。他の軍じしせつも見学会でなくてもいきたいです。今日はほんとうにこの見学会にあってよかったですと思います。自由けんきゅうにしたいと思いました。(11歳男性)

★最初は正直9時頃から12時頃までトイレ休けいもなしで3時間体がもつかどうか心配だったのですが、いざ見学会に参加してみると遺跡見学をしたり先生の説明を聞いたりするのに集中して、無事終わることが出来ました。時間てきにも、「きっと30分ほどオーバーして終わるだろう」と思っていたのですが、むしろ15分ほど早く終了し、午後からの予定もたてやすく、個人的には非常に助かりました。これからもこのような見学会が行われ、市民のより多くの方々に参加していただき、市内の戦争遺跡について理解がすすむことを願っています。最後になりましたが今回お世話になったスタッフ、関係者の皆さまに感謝申し上げます。どうもありがとうございました。(40代男性)

★7月24日は、「戦争遺跡見学会」ありがとうございました。初めて参加させていただきました。弾薬庫跡、掩体など、当時の姿が残っているのに驚きました。これらの施設のほとんどが戦争中に造られたものであることのことでした。こんな戦争とは直接関係のないような私たちの住んでいるところの近くに、戦争遺跡がたくさんあることに驚きます。それだけ戦争は、当時の人たちの身近に迫っていたことを改めて感じました。三重県というと工業地帯だった四日市など以外には大きな空襲を受けていませんが、この鈴鹿は、本土決戦に備えての軍都だったんだと思いました。戦争が長引き本土決戦になっていたら、三重県も沖縄のような悲惨な状況になっていたのだと思いました。

私の住んでいる員弁地区でも、今、戦争遺跡を調べています。いなべ市には、被爆梵鐘や弾薬箱などが残されています。また、いなべ市に隣接する菰野町では、戦時中に造られた本土決戦用の飛行場の跡や訓練場の跡もあります。しかし、これらの戦争の遺跡などは、地域が整備されるに従い壊されていっています。今は平和な日本ですが、何か戦争の影が少しずつ近づいているような気がします。戦争の悲惨さを知る人が少なくなっている今、もう一度戦争の怖さを思い返す意味でも、こうした戦争遺跡を残していく活動を進めていくことが大事だと思いました。今回の見学会で、改めて鈴鹿市には、たくさんの戦争遺跡が残されていることを感じました。また、機会があれば参加させていただきたいと思います。今回の見学会は、たまたまインターネットを見ていたら見つけたものでした。もし可能でしたら、また見学会があるときは連絡をいただけるとありがたいです。(60代男性)

☆昨年に続いて参加させていただきました。今年は白鳥レイクタウンの陸軍第一航空軍教育隊の弾薬庫跡や三畑町の北伊勢陸軍飛行場掩体など当時の姿のまま今に残る戦争遺跡をつぶさに見学することができました。また伊勢国府跡付近の広大な平端地に飛行場が築かれていたことを知りました。そして戦争遺跡からは離れますが、国庁跡のそばのコンクリート構築物が戦前の市外電話の設備のなごりであり、産業遺産であることも浅尾先生から教えていただきました。さらに最近の調査で、今日訪れた掩体のほかにも藪の中に埋まっている掩体があるとのお話で、来年の見学会が楽しみにになりました。戦争を知る世代が少なくなりつつある今、子供たちにも日本にもかつて戦争があったことを伝えることができるこのような見学会は貴重な試みだと思いました。ありがとうございました。(70代男性)

★今回、戦争遺跡見学会に参加させていただいたことは、とても貴重な経験となりました。鈴鹿市在住ですが、今も戦争遺跡が残されていることは知りませんでした。実際に自分の目で見ることで、戦争の恐ろしさ、悲しみ、その時代の状況を想像することで、改めて平和の尊さ、大切さを強く思いました。(40代女性)



【椿秘匿飛行場掩体】



【陸軍第一気象連隊跡】

# 戦争遺跡保存全国シンポジウム松代大会参加記

8月20日(土)～22日(月)、長野県長野市松代で第20回戦争遺跡保存全国シンポジウム松代大会が開かれました。市民の会からは共同代表の竹内をはじめ、長瀬、浅尾、岩脇、中村の各世話人の計5人が参加しました。大会は戦争遺跡保存活動をしている全国の仲間との交流集会で、以下その参加記です。

## ■20回目の全国シンポ

戦争遺跡の保存について、全国の仲間と話し合い交流しようというシンポジウム。それが、戦争遺跡保存全国シンポジウムです。今年で第20回を迎えました。1997年に第1回が開かれたのが「松代大本営」のある松代(長野県)。当時の参加者は100名、「戦争遺跡」という言葉もまだ知られていなかった頃でした。私の戦争遺跡調査の師匠である京都の池田一郎さんが「松代や沖縄、全国の研究者が一堂に会して全国大会をします。戦争遺跡研究もようやくここまで来ました」と連絡して下さったのを覚えています。

あれから20年。ハタチになる区切りに、今年は再び松代での開催です。今年の参加者は約370名、戦争遺跡を保存する大切さを全国で共有できる時代になりました。大会に参加しながら、05年に亡くなられた池田一郎さんの笑顔を何度も思い浮かべました。

池田さんと言えば、2002年に鈴鹿市考古博物館で開催された『戦争遺跡を掘る』展に来られた時に、「戦争遺跡と銘打った展示会を自治体がするのは、全国で初めてとちゃうか」と言われたことも思い出します。鈴鹿では2012年に第16回目の戦争遺跡保存全国シンポジウムも開催しており、全国シンポの歩みにも名を連ねていますね。



## 【戦跡保存全国シンポ全体会】

8月20日に松代文化ホールで開催された全体会では、『キムの十字架』の作者である和田登さんの記念講演があり、和田さんが「今また、墨塗りが始まっている」と言われたのが心に残りました。敗戦直後に子どもだった和田さんは、教科書に書かれた皇国史観や軍国主義の部分を墨で塗り消しました。今は逆に「南京大虐殺」「従軍慰安婦」「沖縄の強制集団死」などの都合の悪い歴史を、国や政府が塗りつぶそうとしているという指摘でした。



【分科会で司会をする岩脇さん】

戦争遺跡保存の現状と課題の基調報告のあと、熊本の戦争遺跡の被害状況の報告があり、戦争遺跡を含む多くの文化財が被災したことがわかりました。会場では戦争遺跡修復の募金活動も行われ、ほんの少しずつですが協力しました。

21日に松代公民館で開催された分科会には全国から18本のレポートが集まり、たくさんのヒントをもらえました。また、私たち市民の会の進めている活動がまちがっていないことも再確認できました。

## ■サプライズ「地下御座所に入れた！」

2日は現地見学で、「松代大本営」の象山地下壕と舞鶴山地下壕を見学しました。大型バス2台の見学者を効率よく小集団に分けて、上手に時間差を作りながら狭い地下壕の案内をする手際の良さはさすがです。毎年10万人の見学者を受け入れている貫録を感じました。

舞鶴山地下壕は天皇と皇后が疎開する計画になっていた、御座所用に建てられた地上の建物と頑丈な地下壕が残っています。どちらも気象庁が使用しているために立ち入り禁止で、御座所はガラス戸越しに中をのぞき、地下壕も特別に許可された時のみ階段の下まで行ける程度でした。今回は、現地実行委員会が気象庁と交渉して、これまで以上の部分を見学できるのではないかと期待していましたが、予想を大きく上回るサプライズが待っていました。

地上の御座所は、「天皇の部屋」の中まで入ることができ、内装は日本家屋ですが天井は1m以上の厚いコンクリートで守られていることを確認できました。地下壕では、階段を降りて行った所にある「これより先は通れません」と書かれた扉が開いていたのでビックリ。その扉を抜けて長い通路を進み、「地下御殿」の地下浴室跡まで行きました。松代のガイドさんも「ここは初めて入ったので案内できません！」と興奮気味に、嬉しそうに言われていました。浴室跡の奥にはさらに2部屋あったので、ダメモトで一番奥まで入ってみました。気象庁の職員さんに制止されることもなく撮影もできました。

気象庁がここまで公開してくれたのは、この施設がこの4月に無人化された背景もありますが、何とんでも市民団体が気象庁との信頼関係を20年かけて築き上げてきたからこそだと思います。市民の力で重い扉がまた一つ開かれました。また、「天皇が死んでも、三種の神器が残れば何とかなる」と神器用の地下壕を造りかけていたことや、「天皇と皇太子のどちらかが生き残ればいい」と離れた場所に疎開させる計画だったことも知り、天皇が「国体護持」に利用させていただいただけだったこともよくわかりました。

## ■来年は高知です

来年の第21回大会は高知市・南国市で開催されます。2000年の第5回大会に続いて2度目の開催です。南国市では海軍のコンクリート掩体が7基残り、とても珍しい景観をつくっています。海岸には巨大トーチカもあります。平和活動の拠点である「草の家」（高知市）では、若い人たちの自主的な活動に明るい未来を感じることができます。坂本竜馬記念館や桂浜、美味しい<sup>わら</sup>藁焼きカツオのたたきもあります。来年の8月19～21日は、みんなで土佐の高知に行きましょう。



【象山地下壕での見学】



【舞鶴山地下壕・天皇御座所】



【高知県南国市のコンクリート製掩体】

## 風の街文化祭戦争遺跡写真展示のご案内

1. 日 時 2016年10月23日(日) 10時～17時
2. 場 所 鈴鹿ハンター 1階中央催し場
3. 内 容 鈴鹿市の戦争遺跡の写真展示

## 市制74周年記念 戦争遺跡写真展示会と講演会のご案内

1. 日 時 2016年11月28日(月)～12月3日(土)
2. 場 所 鈴鹿市住吉公民館 (鈴鹿市住吉一丁目22-3)
3. 内 容

①戦争遺跡写真展示会 11月28日(月)～12月3日(土)

②講演会 12月3日(土) 13時30分より

講師 浅尾 悟さん(白子中学校教諭)

演題 「鈴鹿海軍工廠と住吉工員住宅」

※当日は鈴鹿海軍工廠関係資料の展示も行います。

③その他 聴講無料



【戦時中の住吉住宅】

## 【資料紹介】 鈴鹿海軍航空隊格納庫神棚

最近まで存在した鈴鹿海軍航空隊の第三格納庫には北面の柱上部に神棚が設置してありました。縦80cm、横30cmの木製の神棚で、中には伊勢神宮や豊川稲荷のお札が入れてありました。航空隊の実技練習や出撃には事故がつきもので、鈴鹿海軍航空隊でも伊勢湾や対岸の知多半島上空で何回かの墜落事故がありました。1944(昭和19)年8月、第13期予備学生と教官ら4人がのった練習機・白菊は白子海岸沖で墜落、帰らぬ人となりました。

飛行練習生や教官操縦士にとってまさに事故のないように毎回、神様に祈って飛びだっていたのでしょう。これはそのような隊員の姿をずっと見届けた神棚だったのです。



【第三格納庫にあった神棚】



## 【発行】 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代 表 竹内宏行、中森成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電 話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

H P <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>